

5. 第 25 回サッカー競技実施要項

1. 競技種目

サッカー競技とする。

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本サッカー協会規定の「サッカー競技規則」及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格ならびにエントリー、代表枠の確定

- ① 加盟団体単位に編成したチームとする。ただし、加盟団体単位にチームを編成できない場合は、当該ブロック内に限り、連合チームを編成することができる。
- ② 所属ブロック内にサッカーチームがない場合に限り、他ブロックのチームに加入することができる。
- ③ ブロック代表枠について
 - 1) 本大会の出場チーム数は、地元代表チームを含めて 16 チーム以内とする。
 - 2) 代表枠の決定方法は、次の順序による。
 - (ア)ブロックの第 1 代表(原則として優勝チーム)及び開催地元チーム、各ブロックの第 2 代表(原則として準優勝チーム)を優先する。
 - (イ)上記によっても 16 チーム未満の場合は、前年度予選大会参加チーム数が多いブロック順に 1 チームずつ推薦する。この配分順は大会年度の前年度日本ろう者スポーツ協会全国委員会での抽選等により決定する。(16. その他(6)②に注意)
 - (ウ)上記 2)の規定にかかわらず、出場できるのは 1 都道府県につき、1 チームを原則とする。(例外として、北海道は 1 ブロックとして複数チームの出場が認められる)
- ④ エントリー方法
 - 1) 本大会への出場を希望するチームは、ブロック代表枠が確定しない段階にも関わらず、規定の締切日までに実行委員会にエントリーすること。エントリーが締め切られたあとでブロック代表枠が確定するので、その段階で出場権の有無を決定する。
 - 2) 前記代表枠が決定次第、出場可否を速やかに全チームに連絡するとともに、出場権が得られなかったチームに対してはチーム参加費を返還する。

4. チームの編成

1 チームの編成は、監督・コーチ・マネージャーを含めて、22 名以内とする

5. 競技方法

競技は、3 チーム以上の参加により実施する。原則的にトーナメント方式により優勝以下 3 位までを決定する。ただし、出場チームが少ない場合はリーグ戦とすることがある。試合時間は 70 分とし、ハーフタイムのインターバルは、10 分とする。勝敗が決しない場合は、PK 方式により勝者を決定する。ただし、決勝戦のみ 20 分の延長戦を行う。それでも勝敗が決しない場合は PK 方式により勝者を決定する。

6. リーグ戦の順位決定について

- ① 勝ち点の合計(勝ち 2 点、引き分け 1 点、負け 0 点)
- ② 得失点差の多い順
- ③ ゴールアベレージ
- ④ 当該チーム間の対戦成績

7. 使用球

試合球は、(財)日本サッカー協会公認 5 号球とする。

8. 組み合わせ抽選

監督・主将会議において、抽選を行う。本抽選のくじ引き順を決める予備抽選は、同会議への出席受付順とする。

9. 競技者の交代

交代については、試合開始前に登録した 9 名の交代要員の中から 5 名までの交代が認められる。

10. 警告・退場者の取り扱い

退場を命じられた選手は、次の 1 試合もしくは 2 試合に出場することができない。
処分(1 試合又は 2 試合)は試合終了後、規律委員会で決定し、チームに通告する。

11. 危険物

競技中は、メガネおよび補聴器の装着を認めない。

12. ユニフォーム

- ① 参加申込書に登録されたものを原則とし、参加申込書送付後の変更は認めない。
なお、選手番号の変更も認めない。
- ② 正のユニフォームの他、異なる色のユニフォーム(副)を参加申込書に記載し、試合には必ず正副のユニフォームを携行すること。(GK も正副揃える)
- ③ 選手番号は必ず参加申込書に登録された選手固有の番号をつけること。
【ユニフォームに取り付ける選手番号について】
 - ・シャツの背中 高さ 25 cm
 - シャツの前面 右側・左側・中央に高さ 10cm
 - パンツの右側又は左側に高さ 8cm(シャツの番号と同一)
- ④ 試合におけるユニフォームの決定は、両チーム立ち会いのもとで、主審が正副の中から色を組み合わせて決定する。
- ⑤ サーマルアンダーショーツ(スパッツ)を着用する場合は、パンツの主な色と同色とする。

13. 審判の合図

フリーキック、PK、プレースキックで、キッカーに蹴らせるタイミングを知らせる笛の代わりに、笛がなり始めてから終わるまでの間、主審は片手を前に水平に伸ばして示すものとする。

14. 表彰

表彰は決勝戦終了後、閉会式において行う。

個人表彰は、「最優秀選手賞」(1 名)・「優秀選手賞」(ベスト 4 のチームから各 1 名)とし、選考は競技主管である開催地のサッカー協会が行う。

15. 本大会は、テクニカルエリアを設ける。

テクニカルエリアの使用について、チーム役員は、その都度 1 名がテクニカルエリアから戦術的指示を与えることが出来る。指示を伝えたら所定の位置に戻らなくてはならない。全てのチーム役員は、その中に止まっていなければならないし、責任ある態度で行動しなければならない。

16. 審判補助員の配置

ゴール裏斜めの位置に、旗を持った補助員 1 名 (計 2 名) を置く。

17. 注意事項

(1) メンバー表の提出

メンバー表は 3 部複写とし、3 部提出し確認を受けること。1 部はチーム控えとして返却する。メンバー表、交代用紙は監督・主将会議にて配布する。第 1 試合については、試合開始予定時間の 40 分前に競技本部に提出すること。以降の試合については、前の試合のハーフタイム時に提出すること。試合に勝ったチームは、試合終了後に次の試合のメンバー表を競技本部まで取りにくること。

(2) 交代用紙

交代用紙は 5 枚配布する。用紙には、時間、選手名(フルネーム)、監督のサインを記入すること。

(3) チーム・ベンチ

- ① 第 4 審判員席からグラウンドに向かって左側のベンチは組み合わせの左側のチームが、右側ベンチは組み合わせの右側のチームが使用する。
- ② テクニカルエリアに設置されたベンチには、11 名が着席出来る。

(4) 練習時間

グラウンドでの練習は、試合開始 20 分前より 10 分前とする。ただし、大会運営上支障があるときは、変更することがある。

(5) 競技の組み合わせ

組み合わせ方法は競技実施要項にもとづくものとするが、最終的には参加申し込みチーム数に応じて、主催者と競技主管が協議して決定する。前大会の成績によるシード制を採用することがある。

(6) その他

- ① 注意事項は、チーム全員に徹底しなければならない。
- ② 実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが 16 に満たない場合、すぐ日本ろう者スポーツ協会事務局にその旨を伝えること。

18. 本要項の改正

- ・一部改正 2004 年 2 月 22 日 第 6 回全国委員会
- ・一部改正 2005 年 2 月 27 日 第 7 回全国委員会

〔本大会申合せ事項〕

1. ユニフォームの決定は、1 回戦は監督・主将会議で行う。2 回戦以降は、メンバー表交換の場で決める。

6. 第24回テニス競技実施要項

1. 競技種目

Aクラス・Bクラスごとに分けて、下記種目を行う。

①Aクラス

シングルス戦：男子シングルス・女子シングルス

ダブルス戦：男子ダブルス・女子ダブルス

②Bクラス

ダブルス戦：男子ダブルス・女子ダブルス

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本テニス協会のテニス競技規則及び本大会申合せ事項によるものとする。

3. 出場資格

- ① 出場人数について、加盟団体毎に制限を設けない。
- ② 選手はAクラスかBクラスか、どちらかを選択する。両クラス同時出場はできない。
- ③ Aクラスでシングルス・ダブルスの単数、複数出場は出来る。
- ④ Bクラスを選択する者で、最近過去2年の全国ろうあ者体育大会Aクラス・シングルスでベスト16以上の者は該当しない。
- ⑤ 加盟団体内でダブルスのペアが組めない場合、大会競技実施要項規定6(2)により、当該ブロックの他加盟団体の者と組むことができる。それでも組めない場合は、ブロック枠を越えて組むことができる。

4. 競技方法

- ① Aクラス(男女各シングルス、男女各ダブルス)はトーナメント方式とする。但し、参加状況によりリーグ戦とすることがある。
- ② Bクラス(男女各ダブルス戦)は予選リーグと決勝トーナメント方式とする。但し、参加状況によりリーグ戦とすることがある。
- ③ 1試合1セットマッチ6オールタイブレーク(6-6・7)とする。但し参加状況により、1試合3セットマッチ(最終セットはアドバンテージ・セット)

5. 使用球

- ① 公認ボールを使用する。(ダンロップ・フォート、イエロー)
- ② 試合終了後、その試合で使用したボールは、敗者に授与することとする。

6. 組み合わせ

- ① 参加申し込み締め切り後、実行委員会において、審判長立ち会いのもとで代理抽選により決定する。
- ② シングルスは男女とも前回ベスト8の上位4名は端シードとし、残りは中央シードとする。
ダブルスは男女とも前回ベスト4をシードとする。
ただし、シングルス、ダブルスともシード権を持つ選手および組み両選手が不参加の場合は空白(Bye)とする。

7. 表彰

各種目とも決勝戦終了後、閉会式において行う。

8. 注意事項

(1)試合進行は、オーダーオブプレーにより行うので、選手は各自の責任で試合時間、試合コートを確認すること。

(2)次の試合の選手は、割り当てられたコートの後方で待機すること。試合開始に間に合わなかった場合は JTA ルールに従い、処理する。

(3)ウォーミングアップは3分以内とする。ただし、試合の進行状況によってはサーブ4本のみとする場合がある。

(4)競技サインについて

① ポイント

ア)0(ラブ) 指全部で0をつくる。(指文字の「お」)

イ)15(フィフティーン) 1とし、人差し指を1本立てる。

ウ)30(サーティー) 2とし、人差し指と中指の2本を立てる。

エ)40(フォーティー) 3とし、人差し指と中指と薬指の3本を立てる。

オ)デュース 片手で器(コップ)を持ち、飲むしぐさをする。

カ)アドバンテージ こぶしを握り、親指を水平にして(指文字の「あ」)をその得点プレーヤーにむける。

② コール

ア)「アウト」「フォルト」又は「ダブルフォルト」は片手を高く上げて示す。

イ)「グッドボール」は、腕を伸ばし、手のひらを下に向け、胸より下に示す。

ウ)「レット」は、両手を肩より高く上げた後、片手の手のひらをひらき(ネットを意味する)、もう一方の手は握り(ボールを意味する)ネットに触れた様子を示す。そして、指を第1サービスの時は2本立て、第2サービスの時は1本立てる。

エ)「ナットレディー」及び「タイム」は、両手で「T(ティー)」の形で示す。

オ)「タイブレーク」は、両コートに対して両手で「同点」の手話で示す。

カ)「エンドの交替」は、両手を左右に伸ばし、それを左右に交差させる。

(5)服装とテニスシューズについて

① JTA の規則に定められたテニスウェアを着用し、テニスシューズは、競技コートに合ったものを各自用意すること。(Tシャツは禁止)

② 製造業者及びロゴについては JTA の規則に従う。

9. その他

競技進行上、差し支えない限り、雨天でも決行する。

10. 本要項改正

・一部改正 2004 年 2 月 22 日 第6回全国委員会

・一部改正 2005 年 2 月 27 日 第7回全国委員会

7. 第 19 回ゲートボール競技実施要項

1. 競技種目

ゲートボール競技とする。

2. 競技規則、審判

(財)日本ゲートボール連合「公式ゲートボール競技規則 2003」並びに審判実施要領及び本大会申し合わせによる。審判は、(財)日本ゲートボール連合公認審判員があたる。

3. 出場資格

- ① 加盟団体単位に編成したチームのみとする。
- ② 参加チーム数は、加盟団体単位に 3 チームまでとする。(A・B・C チーム)

4. チーム編成

- ① 1チームの編成は、監督 1 名、選手 5 名以上 8 名以内とする。
- ② 監督は専任とし、選手を兼ねることは出来ない。また、監督をおかなくてもチームは成立する。
- ③ 選手のうち、1 名を主将とする。男女を問わず年齢制限はなしとする。

5. 競技方法

- ① 予選リーグ戦・決勝トーナメント戦とする。
- ② 競技時間は 30 分とする。
- ③ 8 名以内の選手の内 5 名が競技に参加し、1 試合中に 3 名まで 1 回に限り交替することができる。
- ④ リーグ戦各コートの上位 2 チーム(1・2 位)が決勝トーナメント戦に進出する。

6. 組み合わせ

リーグ戦・トーナメント戦の組み合わせは、抽選によって競技本部で決定する。

7. 表彰

表彰は、競技終了後閉会式において行う。

8. 注意事項

① コート設営

- (ア)コートは、インサイドライン縦 15m・横 20m とする。
- (イ)インサイドライン、アウトサイドライン並びにフリーゾーンの区画はテープを使用する。
- (ウ)待機エリアは椅子を設けて、その範囲とする。

② 競技進行

- (ア)先攻・後攻は抽選かジャンケンで決める。
- (イ)リーグ戦の順位決定法は次の順序による。①勝ち試合数 ②得失点差 ③対戦結果
- (ウ)競技の没収に対しての得点は 0:0 とする。
- (エ)競技を没収されたチーム及びリーグ戦を棄権するチームがあった場合は、残りチームの対戦結果にて代表チームを決定する。
- (オ)雨天決行とする。ただし、荒天により競技方法を変更する場合がある。この場合は、大会競技委員長が決定する。
- (カ)スパーク打撃の際のコート修正は打者の申し出により審判が行う。

③ 用具等

- (ア)スティックは参加者が持参するものとする。
- (イ)主将の表示マークは、チームが用意する。
- (ウ)大会使用球は、実行委員会が用意する。
- (エ)打順の番号表示は、チームが用意する。
- (オ)主将の指示はスティックを使わず、手で指示すること。
- (カ)競技者は試合の 10 分前に、全員コートのそばに集合すること。
- (キ)オーダー表は試合の都度コートの審判に渡すこと。
- (ク)オーダー表交換は、試合開始予定時刻の 10 分前とする。

9. 競技時間

但し、進行の都合により変更することがある。

【第一日目】		【第二日目】	
開始式	9:00～ 9:20	<決 勝>	
第一試合	9:30～10:00	第二回戦	9:00～ 9:30
第二試合	10:10～10:40	準決勝戦	9:40～10:10
第三試合	10:50～11:20	決勝戦	10:30～11:00
第四試合	11:30～12:00	閉会式	11:20～終 了
昼 食	12:00～12:50		
第五試合	13:00～13:30		
第六試合	13:40～14:10		
<決勝>			
第一回戦	14:30～15:00		

10. 本要項の改正

- ・一部改正 2004 年2月 22 日 第 6 回全国委員会

8. 第 18 回ボウリング競技実施要項

1. 競技種目

- ① 団体戦:男子団体・女子団体
- ② 個人戦:男子個人・女子個人

2. 競技規定

- ① 大会開催年度の JBC(財団法人全日本ボウリング協会)規則を準用する。また、本大会申し合わせ事項による。
- ② 予選、決勝ともアメリカン方式で行う。

3. 出場資格

- ① 個人戦は、人数制限を設けない。
- ② 団体戦は、加盟団体毎に男女別1チームとする。

4. チームの編成

- ① 男子団体は 1 チーム 4 名、女子団体は 1 チーム 3 名とする。
- ② 団体戦で自チームが定員に満たない場合、当該ブロックの加盟団体から男子は 2 名まで、女子は 1 名まで補充できる。

5. 競技方法

- ① 団体戦
男子の部 4 人×6 ゲームとし、計 24 ゲームのトータルピンにより順位を定める。
女子の部 3 人×6 ゲームとし、計 18 ゲームのトータルピンにより順位を定める。
- ② 個人戦
男子の部 予選 6 ゲームとし、そのトータルで上位 24 名が決勝へ進出する。決勝は 3 ゲームを行い、9 ゲームトータルにて順位を決定する。
女子の部 予選 6 ゲームとし、そのトータルで上位 12 名が決勝へ進出する。決勝は 3 ゲームを行い、9 ゲームトータルにて順位を決定する。

6. 表彰

- ① 各種目とも決勝戦終了後、閉会式において行う。
- ② HG 賞、HS 賞は個人戦予選を対象とする。

7. スタート、ゲームセットについて

- ① スタートの合図時に遅刻した場合は失格とする。
- ② スタートの合図は緑色、ゲームセットは赤色の旗を用いる。

8. スコアの確認

各ゲームのスコアをスコアカードに記載し提出する際、次のことに注意すること。

- ① 選手自身がサインしなければならない。
- ② スコアの誤記、誤算が発見された場合は、本人の確認サインがあっても本人を呼び出し、訂正の承認をとり確定する。但し、競技会の進行上、呼び出し後 5 分以上は待たず、本人の承認以前に記録委員長が確定することがある。

9. 使用ボールについて

- ① ボールラックには使用ボール 2 個までとする。
- ② ボールラックが狭い時は、ラックの下に置くこと。
- ③ 参加選手はマイボールを使用すること。
- ④ ボールにテープ類の付着等、投球に有利な工作をした場合は失格とする。
- ⑤ 競技中のボールの破損、損傷については主催者も会場責任者も責任を負わない。

10. タイスコア

予選、決勝において同順位が 2 名以上の場合は、シリーズのハイ・ロー差の少ない方、もしくはゲームのハイ・ロー差の少ないほうを上位とする。それでも決められないときは、プレーオフ 9F・10Fを行う。

11. 競技服装等

- ① ユニフォーム着用を義務とする。着用なしは失格とする。またスポーツにふさわしくない服装、ハチマキなどは認めない。
- ② ユニフォームには都道府県名と名前を背部に、「氏」もしくは「氏名」(1文字 5 cm角位)を必ず記入すること。ガムテープ貼付等は失格となる。
- ③ 団体戦の選手は、全員同じユニフォームを着用すること。

12. 競技中の禁止事項

(ボウラーズベンチ内及びコンコース)

- ① アプローチパウダーその他の物の使用、アプローチの状態の変更は禁止する。
- ② 応援者との雑談、他選手へのアドバイス(但し団体戦で自チーム内は可)、喫煙、飲食、補聴器装着や携帯電話の使用、出場選手と役員以外のボウラーズベンチ内への立ち入り等 は禁止する。

13. その他

- ① メンバー及び投球順の変更は、所定用紙にて監督・主将会議の前日までに提出すること。以降変更は出来ない。
- ② レーン割当は大会参加申込締切日以降、実行委員会において抽選により行う。レーンの変更はマシントラブル以外には認められない。
- ③ ファールは次の投球者に移るまでとし、判定機故障により生じたと見られる場合は、競技委員が裁定する。
- ④ 競技会場へのボールの搬送等に関しては、実行委員会の定めるとおりとする。
- ⑤ 競技中トラブルが発生したときは、競技を一時中断し、競技委員の指示に従うこと。

14. 本要項の改正

- ・一部改正 2004 年 2 月 22 日 第 6 回全国委員会
- ・一部改正 2005 年 2 月 27 日 第 7 回全国委員会